

チェックポイントシート

標準項目	状 態	原 因	問 題(困りごと)	生活全般の解決すべき課題(ニーズ)	ニーズ番号
健康状態	病名:胃がん(リンパ節転移) 受診:入院中、退院後は訪問診療の予定。 服薬:鎮痛剤(疼痛時)、睡眠剤(就寝時) 筋力低下:なし 拘縮:なし その他:がんによる痛み、倦怠感が強いときがある。 身長:154cm、体重:41.0kg、BMI:17.29(6か月内の体重減少あり)	胃がん末期による痛み、食欲低下、体力低下、死への苦痛・不安	利用者	痛み、倦怠感がありつらいときがある。このまま寝たきりになるのか不安。	痛みのコントロールをもらい、痛い思いはしたくない。
	家族		夫)このまま衰弱していくのか。この先の見通しがわからず心配だ。	夫)本人がつらい思いをしないようにしてほしい。家族ができる事はしたい。痛みが激しいときや急変時に迅速に対応してほしい。	
	意見		Dr)胃がん末期であり、痛みや衰弱がみられる。本人の希望により延命処置はしない方針である。 CM)Drから病状説明を受け、在宅生活が可能か判断する。	Dr)在宅医療の希望があれば、よい時期に退院しないとチャンスを失う。自宅でも疼痛管理ができる事を確認して退院させたい。 CM)在宅医療ができるよう医療・看護の体制を整えてから退院する。	
				1	
ADL	食事:自立、セッティングは必要。 排泄:自立 入浴:介助(退院後は自宅で入浴希望) 更衣・整容:自立、自分のペースでゆっくり。 移乗:自立だが、痛みがあるときは時間がかかる 移動:病院内は車いす(車いす移動は、自走or介助)調子がいいときには、座ったりつかまつたりして歩行も可能。	胃がん末期による体力低下、痛み	利用者	体力が低下して身の回りのことができなくなるのがつらい。介助してもらいトイレに行かなければならぬのは申し訳ない。	体調に合わせ、自分ができることはやりたい。せめてトイレは自分でしたい。
	家族		夫)本人ができないこと、トイレを手伝うのも仕方ないことだが、介護できるか心配である。	夫)できないことは無理せず任せたらよい。介護方法を教えてもらい、妻の手助けをしたい。	
	意見		Ns)倦怠感や体力低下によりできないことが徐々に増えていく。 CM)排せつ等、手助けをしてもらうことがつらいのであろう。	Ns)本人に無理させるのではなく、周囲でケアできる環境をつくる。 CM)遠慮する気持ちや羞恥心に配慮しながら、日常の支援を行う。	
IADL	調理・買物・掃除・洗濯:現在してない。 金銭管理:自立 服薬管理:セットすると自分でできる。	胃がん末期による痛み、体力低下	利用者	家事ができなくなり、夫に申し訳ない。	自宅では調子のよいときに家事をしたり、花を活けた。
	家族		夫)妻が家事をできなくなることは仕方ない。	夫)家事はできる限り私が行うので、療育に専念してほしい。	
	意見		CM)主婦としての役割が果たせずつらい思いをしているだろう。	CM)退院後は、夫婦で家事を行ったり、好きなことを行ってもらう。	
認知	他者への伝達、他者の理解等に問題ない。		利用者 家族 意見		
コミュニケーション能力	視力:問題なし。 聴力:耳がやや遠いが、会話に問題なし。		利用者 家族 意見		
社会との関わり	夫とともに社交的である。しかし、やせ細った姿は、他者、特にお弟子さんにはみせたくないと考えている。生け花のお弟子さんを10名程度とっていた。入院前は、週3日生け花を教えており、お弟子さんも午後から訪れていた。	病気による心理的変化	利用者	このような姿を親しい人に見せたくない。	
	家族		夫)やせ細ってかわいそうであるが、お弟子さんたちに病気であることを知らせなくてよいのか。		
	意見		CM)病気になったことは無念だろうが、このまま友人やお弟子さんに会わなくてよいのだろうか。	CM)友人やお弟子さんたちに対して、後悔のないようにしてほしい。	
排尿・排便	便意・尿意あり。トイレでの排せつを希望している。夜間のみポータブルで見守り。便はトイレで排泄している。	がん末期による体力低下	利用者 家族 意見		
褥瘡・皮膚の問題	栄養状態が悪く、褥瘡のリスクは高い。	がん末期による食欲低下、臥床状態	利用者 家族 意見	Ns)栄養状態が悪く、褥瘡のリスクへの対応が必要。	Ns)栄養摂取量、皮膚の状態観察を行い、褥瘡ができないようにする。
口腔衛生	一部義歯。歯磨きは自分でできている。		利用者 家族 意見		
食事摂取	自分で摂取。食事量が低下している。姿勢保持等のセッティングは必要。	がん末期による体力低下、食欲不振	利用者	食事がおいしくなくて、食欲がわかない。	
	家族		夫)食事が摺れず衰弱していく姿を見るのはつらい。	夫)好きなものを1口~2口でもよいから食べてほしい。	
	意見		CM)胃がんの影響により食事を摂るのが困難。	CM)食事は本人の意思に任せて食べてもらう。好きなものを準備しておく。	
認知症の行動・心理状態BPSD	なし。		利用者 家族 意見		
介護力	夫は現在働いてない。町内会長と民生委員をしており、活動的である。介護は初体験で不慣れである。	介護力の不安	利用者	夫に迷惑をかけて申し訳ない。	夫になるべく迷惑をかけないよう暮らしたい。
	家族		夫)妻の気持ちに応えたいが、どの程度介護ができるか自信がない。	夫)利用できるサービスを活用しながら介護をしていく。介護方法を教えてもらう。	
	意見		CM)夫の介護に対する気持ち、介護力を確認する。	CM)本人と夫と話し合いを行い、利用するサービスを決める。	
居住環境	自宅は、退職後に購入。寝室あり。もともとベッド利用。洋式トイレ。浴室は1.5坪と広い。持ち家なので改修は問題ない。	環境の不備	利用者		
	家族		夫)手すりがなく段差があるので移動がしづらい。	夫)必要があれば住宅改修を考える。	
	意見		CM)生活する部屋や動線の確認を行う。	CM)生活しやすい環境に整える。	
特別な状況	痛みが増強しており、オピオイド(パッチ)が必要。	病状の急変	利用者 家族 意見		